

# IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2010年7月号 ([http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl\\_2010.html](http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2010.html))

## 産業応用部門の運営について — 新部門長あいさつ —

電気学会産業応用部門部門長  
玉井 伸三

〔東芝三菱電機産業システム(株)〕



このたび部門長を拝命しました玉井伸三です。電気学会産業応用部門の発展のために尽くす所存ですので、会員皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

私が電気学会と初めて関わりを持ったのは30年前のモーター可変速に関する全国大会発表でしたが、この30年間で電気技術は多くの分野に適用範囲を広げてきました。現代の課題である地球温暖化対策への取り組みにも、電気応用技術がポイントであることは言うまでもありません。会員各位は、日々の活動の中でそのことを実感しているのではないのでしょうか。

産業応用部門では、技術委員会が新分野へ適応することでこれまでも新しい応用分野、市場を取り込んできました。これからも常により良い組織のあり方について議論し、会員各位にメリットのある部門を目指したいと考えております。

いくつかのポイントに分けて、先輩諸氏の成果を踏まえた課題と取り組みの方向性をご説明いたします。

(1) 論文への取り組み：学会の最大の使命は論文発表であります。これまで論文査読システムが構築され、論文委員会が編修委員会から独立し、論文査読体制の充実が図られてきました。また、技術委員会から論文委員会へ幹事を出す仕組みが作られ、論文数の増加に繋がっています。論文査読期間の短縮、英文論文の増加が課題であり、査読体制の強化、英文投稿システムの適切な運用を進めます。

(2) 技術委員会の活性化：論文委員会との連携により、論文数の増加、特集論文の充実が図られました。また、研究調査運営委員会にて技術委員会の新設、再編が議論され、組織の更新が進められています。今後も継続的に技術や産

業構造の変化に対応した組織のあり方を議論し、組織の改変を実行する運営委員会作りを進めます。

(3) 編修広報の充実：ニュースレターの発行リードタイムが半減され、より新しい情報を会員各位に提供できる体制が構築されました。運営の定着を図るため、更にシステムの改善を進めます。産業応用部門ホームページでは、編集システムを見直し、古い情報を定期的に見直す仕組みを構築中です。また、英語版ホームページのリニューアルを計画しています。日本語版、英語版を合わせ、より使い易く有用な情報発信プラットフォームになるよう、ホームページの継続的改善を進めます。

(4) 国際化：部門国際化委員会が設立され、IEEE、欧州、アジアとの連携、著作権の保護などを中心に議論しMOUの締結等を実施しています。世界の中の電気学会産業応用部門として更なるステイタス向上策を考え、試行したいと考えております。

(5) 会員の利便性の向上：会員各位が電気学会産業応用部門会員で良かった。と思えるような魅力の向上策について議論します。特に、産業界の会員から見た魅力の向上は喫緊の課題だと考えており、何らかの取り組みを試行したいと考えています。

会員諸氏にてお考えの産業応用部門の進むべき方向や運営についてのご意見を、電気学会事務局事業サービス課 ([iinkai\(at\)iee.or.jp](mailto:iinkai(at)iee.or.jp))にお寄せいただきたくお願いいたします。お寄せいただいたご意見は役員・委員で議論し部門の運営に役立ててまいりますので、ご指導をよろしくお願いいたします。